

## 2 障がい児・者、要介護者、妊産婦など特別な配慮が必要な人に対する取組

【目標】特別な配慮が必要な人の特性を理解し、適切な支援ができる環境を整備する。

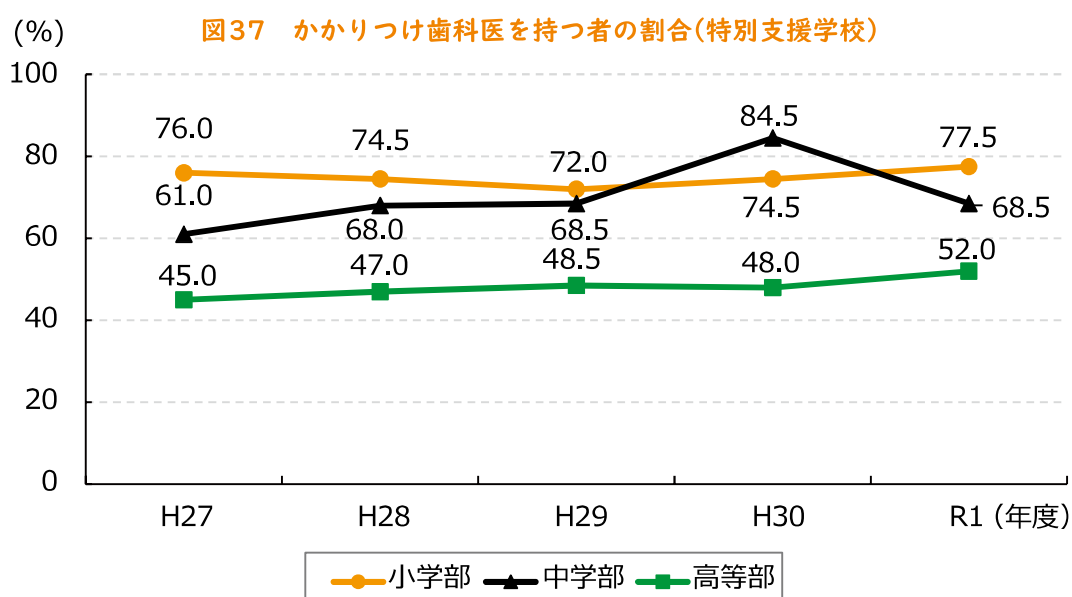
### (1)障がい児・者

#### ○特徴

- ・障がいがあることにより、口腔衛生状態を良好に保つことが困難であることが多いうえ、口の機能が十分でない人が多く、口の中に汚れが残りやすくなり、むし歯や歯周病などの歯科疾患のリスクが高いことが多いです。そのため、定期的な歯科健診や継続的な口腔衛生管理が重要です。
- ・障がいの特性によっては、痛みを訴えることができない場合や、歯科受診が難しい場合もあり、歯科疾患が悪化することや治療が困難なこともあります。
- ・地域の歯科医療機関だけでは治療できない場合もあるため、「静岡市障害者歯科保健センター」との連携を図り、必要な医療を必要なときに提供することが重要です。

#### ○現状

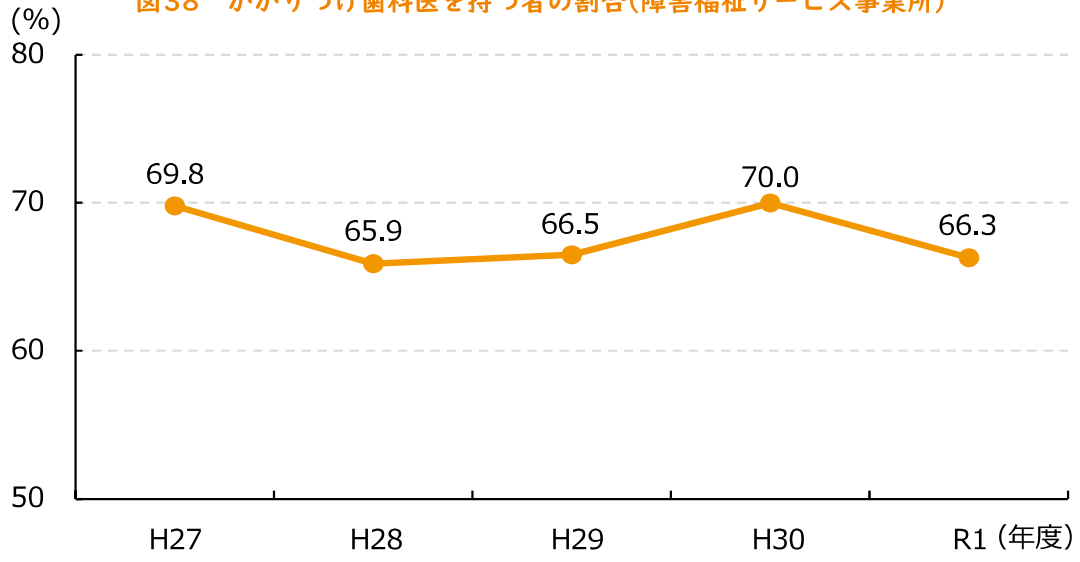
- ・特別支援学校の小学部では、7割程度の人がかかりつけ歯科医を持っているものの、中学部、高等部と学年があがるにつれて割合が減少傾向にあります。



【出典】障害者歯科保健センターアンケート(健康づくり推進課)

・障害福祉サービス等の事業所で市が実施する歯科健診に参加した利用者のうち、かかりつけ歯科医を持つ者の割合は、66.3%でした。

図38 かかりつけ歯科医を持つ者の割合(障害福祉サービス事業所)



【出典】障害者歯科保健センターアンケート(健康づくり推進課)

○これまでの取組

- ・平成17年度に障がいのある人に対して歯科保健医療を専門的に提供する「静岡市障害者歯科保健センター」を開設し、年間延べ約3,500人に対し歯科診療を行っています。
- ・歯科医師、歯科衛生士が障がい児・者施設に出向き、歯科健診、歯みがき支援、講話などの口腔ケア支援を行うとともに、地域の歯科医療機関で診療を受けられるよう、かかりつけ歯科医を持つことを促進するための登録医制度を推進し、環境の整備を図っています。

○課題

- ・歯科健診で治療が必要と判定されても受診しない人が約半数いて、歯科医療機関での受診に繋がっていません。(令和元年度歯科健診後の受診状況データより)
- ・障害福祉サービス等事業所に対して、歯科健診の希望調査を行っていますが、約1/3の事業所が希望しないと回答しているため、その理由と対策を検討する必要があります。
- ・障がい者の中には、高齢期になる前から誤嚥や窒息につながる危険な食べ方をしている人も多く、食べ方を改善するような対策が必要です。

○施策の方向性

- ・障がい児・者が、地域で安心して歯科診療を受けることができるよう、関係機関と連携し、環境の整備を図るとともに、歯と口の健康づくりの困難性や重要性について、地域の歯科医療関係者や支援者の知識を向上し、理解を深めるよう努めます。
- ・本人や支援者に対してもかかりつけ歯科医を持つことの大切さを啓発していきます。
- ・障がい児・者が美味しく楽しく安全に食べられるよう食環境支援を行っていきます。

## ○指標の設定

指標名	調査対象	調査名 (調査頻度)	ベースライン値 (年度)	最終 目標値
特別支援学校でかかりつけ 歯科医を持つ者の割合	特別支援学校 小学部	障害者歯科保健 センターアンケート (毎年)	77.5%(RI)	増加
	特別支援学校 中学部		68.5%(RI)	増加
	特別支援学校 高等部		52.0%(RI)	増加
障害福祉サービス等事業所 でかかりつけ歯科医を持つ 者の割合	障害福祉サー ビス等事業所 利用者		66.3%(RI)	増加

## ○行政の取組

事業名	事業の概要	担 当
歯と口の相談事業	電話等で歯と口に関する相談に対応します。	健康づくり推進課
学童期(思春期) 歯科保健活動	かかりつけ歯科医を持つことの啓発として、放課後等 デイサービス利用者を対象に歯みがき支援等の歯科 保健活動を実施します。	健康づくり推進課
障害福祉サービス 等事業所歯科保健 活動	かかりつけ歯科医を持つことの啓発として、通所の障 害福祉サービス等事業所利用者を対象に歯みがき支 援等の歯科保健活動を実施します。	健康づくり推進課
障害者歯科保健セ ンター職員派遣等	障がいのある人の歯と口の健康を向上することを目 的に、障害者歯科保健センターの職員を派遣し、障が いのある人の保護者や支援者に対する講話や、特別 支援学校の児童生徒に対する歯みがき支援等の歯科 保健活動を実施します。	健康づくり推進課
障害福祉サービス 等事業所歯科健診	かかりつけ歯科医を持つことの啓発として、通所の障 害福祉サービス等事業所利用者を対象に歯科健診を 実施します。	健康づくり推進課
歯科診療事業	障害者歯科保健センターにおいて一般の歯科医院で は、治療が困難な人の歯科治療及び全身麻酔下での 歯科治療を実施します。その他、食環境支援として、小 児の摂食外来、障害福祉サービス等事業所に対して の摂食相談や食環境支援を行っています。	健康づくり推進課

事業名	事業の概要	担 当
研修事業	障がいのある人に関わる支援者への研修会を開催し、障がいのある人の歯科保健の重要性を啓発します。 ・障がい者歯科臨床研修会（登録医研修会） ・保健活動従事歯科衛生士向け研修会 ・事業所職員向け研修会	健康づくり推進課
地域連携推進事業	障がいのある人を支える関係者（歯科医療、医療、教育、福祉、行政、家族等）が障がいのある人の歯科保健を推進するための協議を行い、連携を図る会議を開催しています。歯科医師会との連携により登録医の増加を目指します。	健康づくり推進課
普及啓発事業	障がいのある人や支援者に対して通信を配布し、歯科保健に関する情報提供を行っています。	健康づくり推進課

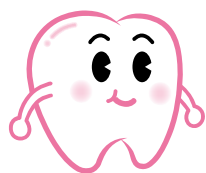
**ミニコラム** 障害者歯科保健センター（歯と口の健康支援センター）  
をご存じですか？

「障害者歯科保健センター」は、障がいのある人が歯と口のことで困ることがなく健やかに暮らせるまちを目指して平成 17 年に葵区域東保健福祉エリアに開設しました。

一般の歯科医院では治療が難しい人の歯科治療（全身麻酔をかけて行うこともあります）や、食べ方に困っている人の相談を受けています。

その他にも、障害福祉サービス等事業所での歯科健診や歯科保健活動、支援者向けの研修会、関係者との会議等、障がいのある人の歯と口の健康に関するさまざまな取り組みを行っています。

歯と口の心配ごとなどありましたら、いつでもご相談ください。



【問合せ先】  
静岡市葵区域東町24-1  
Tel:054-249-3147

～かかりつけ歯科医を持ちましょう！～  
定期的にかかりつけ歯科医に受診できると、何かあってもすぐに対応してくれるので何でも相談できます。  
困ってから探すのではなく普段から相談できる歯科医があると良いですね。

障害者歯科  
保健センターHP



## (2)要介護者

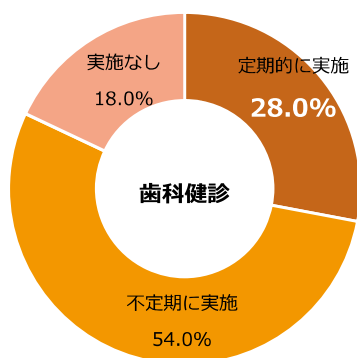
### ○特徴

- ・ご自身での歯みがき等による十分な清掃が難しく、むし歯や歯周病になりやすい状態です。
- ・口腔機能低下(口腔周囲筋の衰えや唾液量の減少等)や口の中の細菌によって起こる誤嚥性肺炎を引き起こしやすい状態にあります。

### ○現状

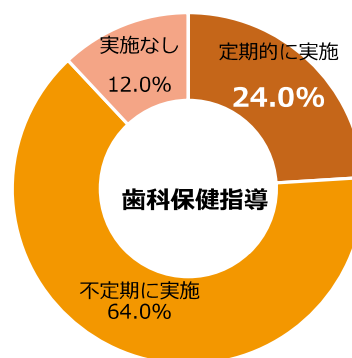
- ・年に1回以上定期的に歯科健診を行っている介護保険施設は全体の3割程度です。(図39参照)
- ・年に1回以上定期的に歯科保健指導を行っている介護保険施設は全体の3割程度です。(図40参照)

図39 年に1回以上定期的に歯科健診を行っている介護保険施設の割合



n=51

図40 年に1回以上定期的に歯科保健指導を行っている介護保険施設の割合



n=51

【出典】H30健康づくり推進課調査

### ○これまでの取組

- ・歯科医院への通院が困難な者に対し、在宅での歯科診療の機会を確保し、口腔衛生の保持増進を図るため、訪問歯科診療の支援を行っています。
- ・介護保険施設を対象に歯科健診を行い、要介護者の口の中の状況把握、施設職員に対する歯と口の健康の重要性、口腔ケア等の啓発を行っています。

### ○課題

- ・定期的な歯科健診及び受診、口腔ケアの重要性を普及啓発していくために、本人や家族、介護施設・介護専門職等に対して、口腔機能向上等の健康づくりに関する情報を提供していく必要があります。
- ・要介護高齢者が、必要な歯科治療やケアを受けられるよう、歯科医療関係者と介護施設・介護専門職種等の連携を強化する必要があります。

### ○施策の方向性

- ・要介護高齢者が、地域で安心して歯科診療を受けることができるよう、関係機関が連携して環境の整備を図るとともに、歯と口の健康づくりの困難性や重要性について、地域の歯科医療関係者や支援者の知識を向上し、理解を深めるよう努めます。
- ・本人や家族、支援者に対してもかかりつけ歯科医を持つことの大切さを啓発していきます。
- ・安全に食べられるよう本人や家族、支援者等に対して、口腔機能向上を含めた健康づくりに関する情報提供をしていきます。

### ○指標の設定

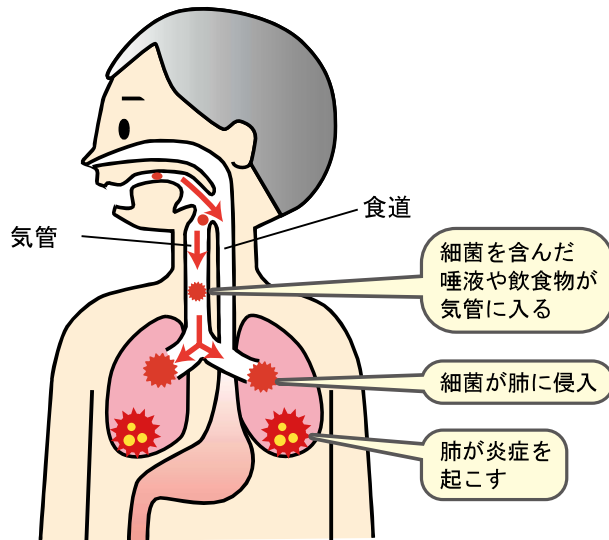
指標名	調査対象	調査名 (調査頻度)	ベースライン値 (年度)	最終 目標値
定期的に歯科健診を行っている介護保険施設の割合	介護保険施設(特養・老健・介護療養型医療施設)	介護保険施設アンケート (毎年)	28.0%(H30)	50.0%
定期的に歯科専門職による歯科保健指導を行っている介護保険施設の割合			24.0%(H30)	50.0%

### ○行政の取組

事業名	事業の概要	担当
訪問歯科診療支援事業	歯科医院への通院が困難な要介護高齢者等が、在宅において必要な歯科診療を受けられるよう支援します。	健康づくり推進課
訪問口腔衛生指導	介護が必要な高齢者等の家庭へ歯科衛生士が訪問し、口腔ケア等の必要な指導・助言を行います。	健康づくり推進課
高齢者施設訪問歯科健診事業	介護施設に入所する要介護高齢者を対象とした歯科健診事業を行います。施設職員向け研修会もあわせて実施します。	健康づくり推進課

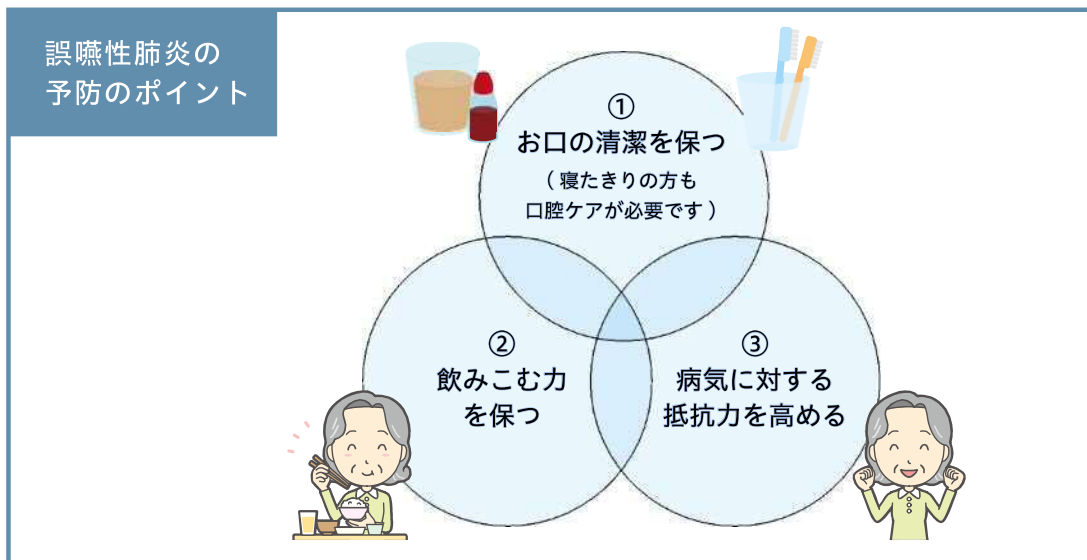
誤嚥とは？

誤嚥とは、食べ物や唾液、胃液などが気管に入ってしまうことをいいます。  
食べ物など飲みこむ際には多くの筋肉を使いますが、その筋肉が衰えることにより、生ずると考えられています。  
その食べ物と口の中に棲みついている細菌との混合物が気管から肺に入り込むことで起こるのが誤嚥性肺炎です。



お口から食べ物等を摂ることがない  
“胃瘻”や“経管栄養”の方でも、  
お口の中の細菌が繁殖した唾液を  
誤って気管に入れてしまうことで  
“誤嚥性肺炎”を発症することが  
あります。  
口腔ケアは重要です。

次のことに気を付けて予防しましょう！



誤嚥性肺炎予防に効果的！  
静岡市オリジナル体操



YouTube で配信中！ ↑

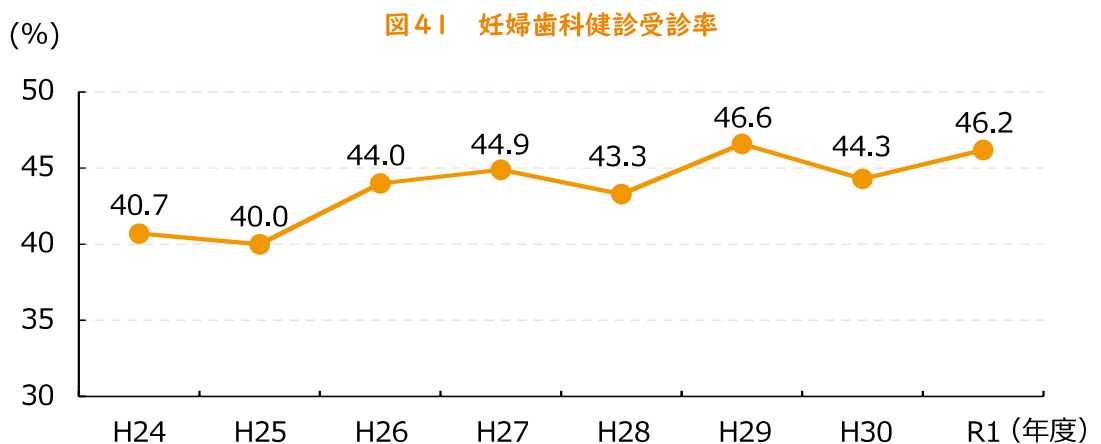
### (3)妊産婦

#### ○特徴

- ・妊娠初期に胎児の乳歯の形成が始まり、妊娠中期に乳歯の石灰化、出産前後から永久歯の石灰化が始まります。妊娠中の健康状態は子どもの歯と口の健康に大きく影響します。
- ・つわり等の影響で歯みがきが十分にできない、間食回数が増えるなどの生活習慣の変化や、妊娠に伴うホルモン等の変化により、口の中の環境が変わり、むし歯ができやすい、歯周病が進行しやすい傾向にあります。
- ・近年の研究結果によると、妊娠中の歯周病は早産や低体重児出産のリスクとなることが示唆されています。

#### ○現状

- ・妊婦歯科健診受診率は40%台を推移しています。



【出典】妊婦歯科健康診査結果(子ども家庭課)

#### ○これまでの取組

- ・マタニティ教室で妊婦と生まれてくる子どもの歯と口の健康の重要性を啓発しています。
- ・妊婦自身の歯や口の健康と、歯周病を原因とする胎児への影響を予防するために、妊婦歯科健診を実施しています。個別医療機関への受診により、その後の定期歯科受診を促しています。

#### ○課題

- ・妊婦歯科健康診査の受診率は40%台を推移しています。
- ・妊婦歯科健康診査の結果から「歯周病の疑いのある者」は67.6%いることがわかっています(平成30年度)。
- ・産婦に対する取組がありません。

#### ○施策の方向性

- ・妊娠期の歯と口の健康が、胎児にも影響を与えることの理解を深め、妊婦歯科健康診査の受診を促し、適切な予防行動を実践できるよう取り組んでいきます。



・子どもの歯と口の健康のみならず、自分自身の歯と口の健康に対しても意識を向けてもらえるよう産婦に対する取組を検討していきます。

## ○指標の設定

指標名	調査対象	調査名 (調査頻度)	ベースライン値 (年度)	最終 目標値
妊婦歯科健診受診率	妊婦	妊婦歯科健康診査(毎年)	46.2%(R1)	50.0%
歯科健診受診率	妊娠期	健康に関する意識・生活アンケート調査(爛漫計画調査年)	64.7%(H28)	増加

## ○行政の取組

事業名	事業の概要	担当
妊婦歯科健診	ホルモンバランスの変化やつわりなどによる食生活の乱れ等により、口腔内状況の悪化しやすい時期に、歯科医師による健診及び適切な歯科保健指導の機会を提供します。	子ども家庭課
マタニティ教室(歯科)	歯科保健の正しい知識を普及し、妊婦と生まれてくる子どもの歯の健康の保持・増進を図ることを目的に歯科衛生士による講話等を行います。	健康づくり推進課



## 妊娠するとむし歯や歯周病になりやすくなる？ 妊娠中の歯の健康

「赤ちゃんを産むと歯が悪くなる」という話を聞いたことは、ありますか？  
これは、お腹の赤ちゃんに栄養を取られてしまうためでは、ありません。妊娠中は女性ホルモンが多くなることやつわりのために何か食べていないと気持ちが悪いなどの生活習慣の変化から、歯周病やむし歯になりやすくなってしまいます。歯周病が進行した場合には、早産や低体重児出生のリスクが高まります。



### つわりによる影響で...

#### 歯みがきが気持ち悪い場合

- ・歯ブラシサイズを小さくする
- ・朝は前歯・昼は奥歯・夜は歯の裏側というように小分けにして短時間でみがく

#### 常に何か食べていたい場合

キシリトール入りガムを食べるのも効果的(キシリトールは、むし歯菌のエサになりません)

### 静岡市では、無料で妊婦歯科健診を実施しています。

安定期(概ね妊娠16~27週)に受診券を利用して歯科受診をしましょう。

(受診券は、母子手帳交付時にお渡します。)

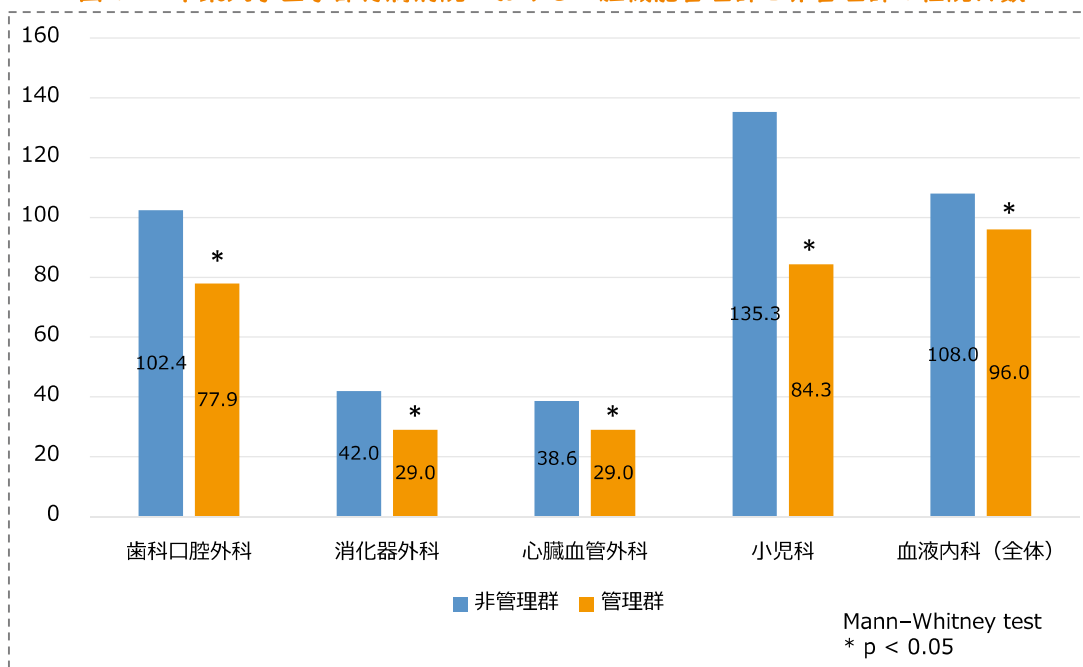
実施歯科医療機関は [静岡市妊婦歯科健診](#) で検索

#### (4)入院患者

##### ○特徴

- ・がん、心疾患、脳血管疾患などの全身麻酔下での手術を受ける患者さんに対し、医科からの依頼に基づいて歯科医師や歯科衛生士による口腔機能管理（歯科医療や専門的口腔ケア）を実施することの重要性が明らかになってきました。
- ・例えば、過去の調査から術前・術後の口腔機能管理により、術後性肺炎などの合併症を予防できたり、在院日数が短くなったりすることが挙げられます。
- ・退院後も（感染性心内膜炎や顎骨壊死など）歯や口に関連する合併症のリスクを下げるためには医科・歯科・薬科の連携が大切です。

図 42 千葉大学医学部付属病院における口腔機能管理群と非管理群の在院日数



【出典】H26.11 厚生労働省社会保障審議会 医療保険部会の資料を一部改変

##### ○課題

- ・全身麻酔を伴う手術を受ける際に、口腔ケアが重要であることを啓発していく必要があります。
- ・歯科のない病院と地域の歯科診療所との連携をさらに充実させる必要があります。
- ・退院後も入院の原因となった病気の状態に配慮した口腔管理をかかりつけ歯科医で受けるための環境整備が必要です。

##### ○施策の方向性

- ・歯科と医科がそれぞれの専門分野について理解及び情報共有することにより、必要な患者さん（入院前後を含む）が必要な口腔機能管理を受けられるような体制を整備します。

## (5)被虐待児

### ○特徴

・十分に食事を与えない、必要な医療を受けさせてもらえないなど、虐待(ネグレクト(育児放棄)など)を受けている子どもや生活が困窮している家庭の子どもの口の中は次のような特徴が認められたとの報告があります。

#### ●6歳未満児の乳歯

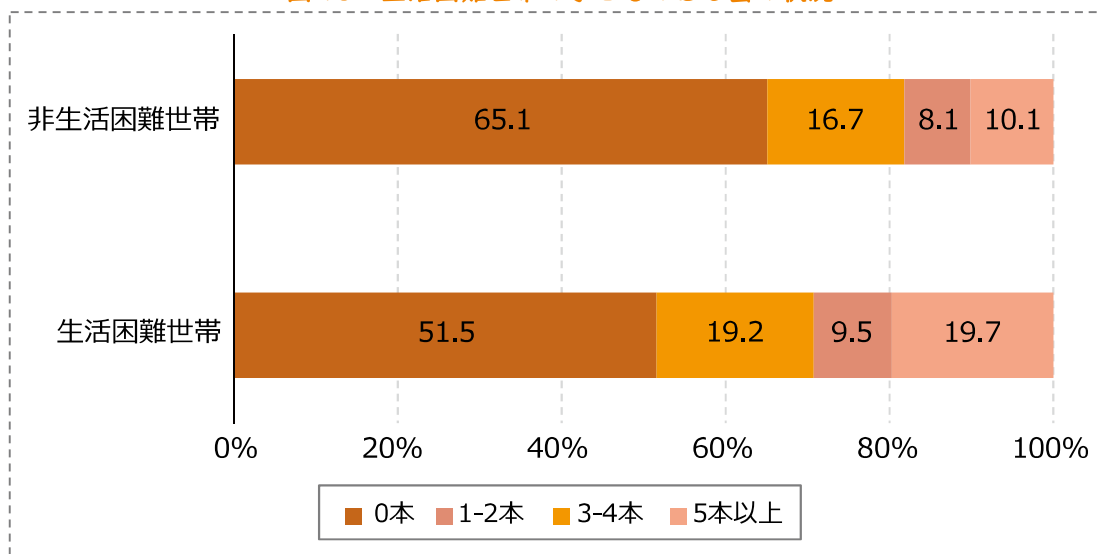
- ・むし歯のない子どもの割合は、対照群(虐待のない群)の2倍以上
- ・一人平均むし歯本数は、対照群の3倍以上
- ・治療をしていないむし歯の本数は、対照群の6倍以上

#### ●6-12歳児の永久歯

- ・11、12歳児の一人平均むし歯本数は対照群のそれぞれ2.7倍、3倍
- ・11、12歳児の処置完了率は対照群のそれぞれ2割以下、3割

【出典】H14 東京都歯科医師会 被虐待児口腔内調査

図43 生活困難世帯の子どものむし歯の状況



【出典】H28 足立区・足立区教育委員会等による調査

### ○課題

・歯科健診の際に「むし歯が多い」、「口の中の汚れが目立ち、歯みがきがほとんどできていない」など、気になる園児や児童、生徒がいた場合は、園医や学校歯科医が養護教諭等とその状況を共有し、適切な支援や保護機関につなぐことが必要です。

### ○施策の方向性

・歯科医師や養護教諭等が状況を正しく把握できるよう研修会等での資質の向上を図ります。  
・家庭の事情に左右されることなく、「だれでも」フッ化物を利用できるよう集団フッ化物洗口の実施設数を増やします。